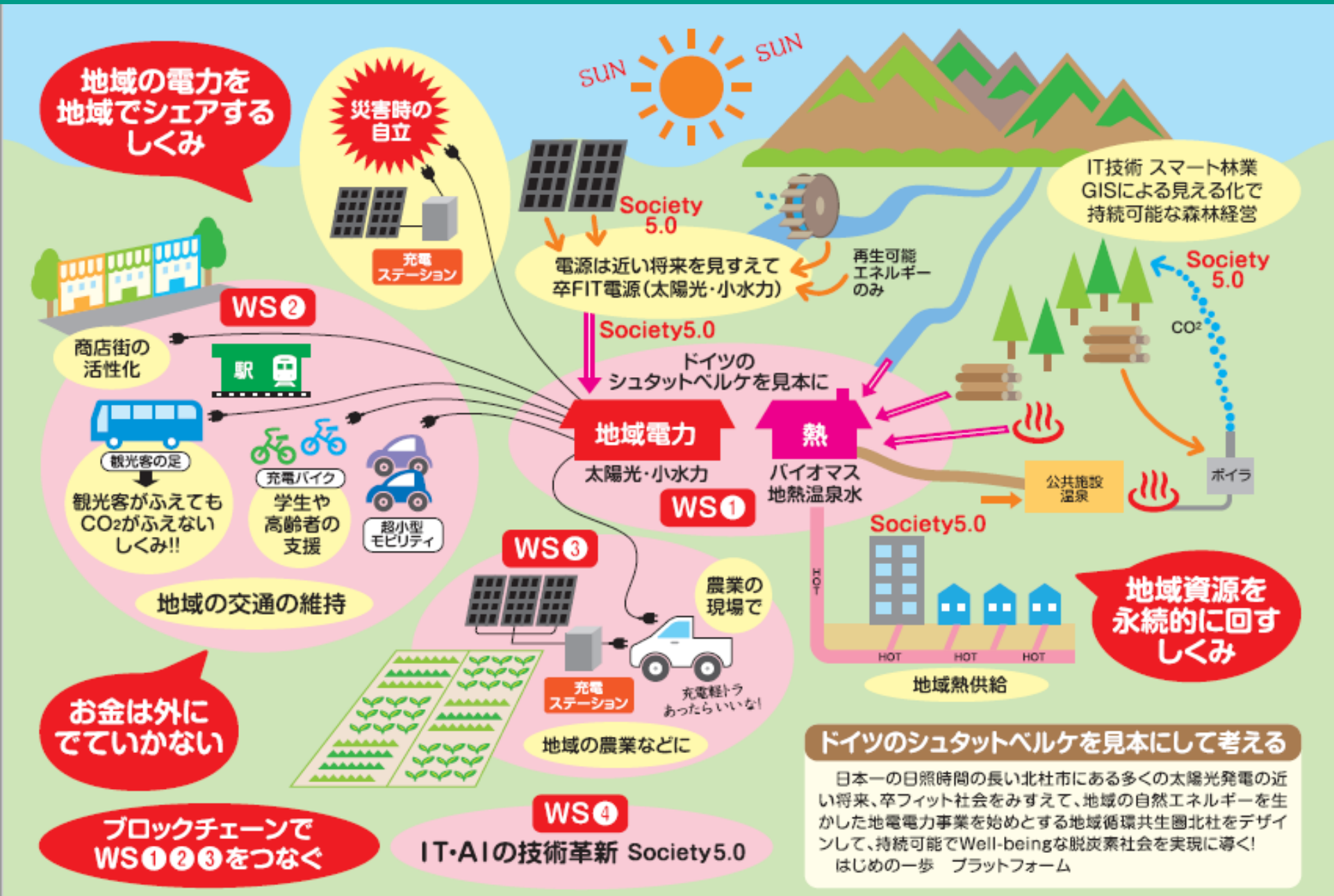
令和2年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会　発表資料

活動団体名：(一社)ゼロエミやまなし
活動地域　：山梨県北杜市

活動におけるテーマ・キャッチコピー
Society5.0の技術で再エネと共存した市民・移住者・観光客にとって持続可能な街

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

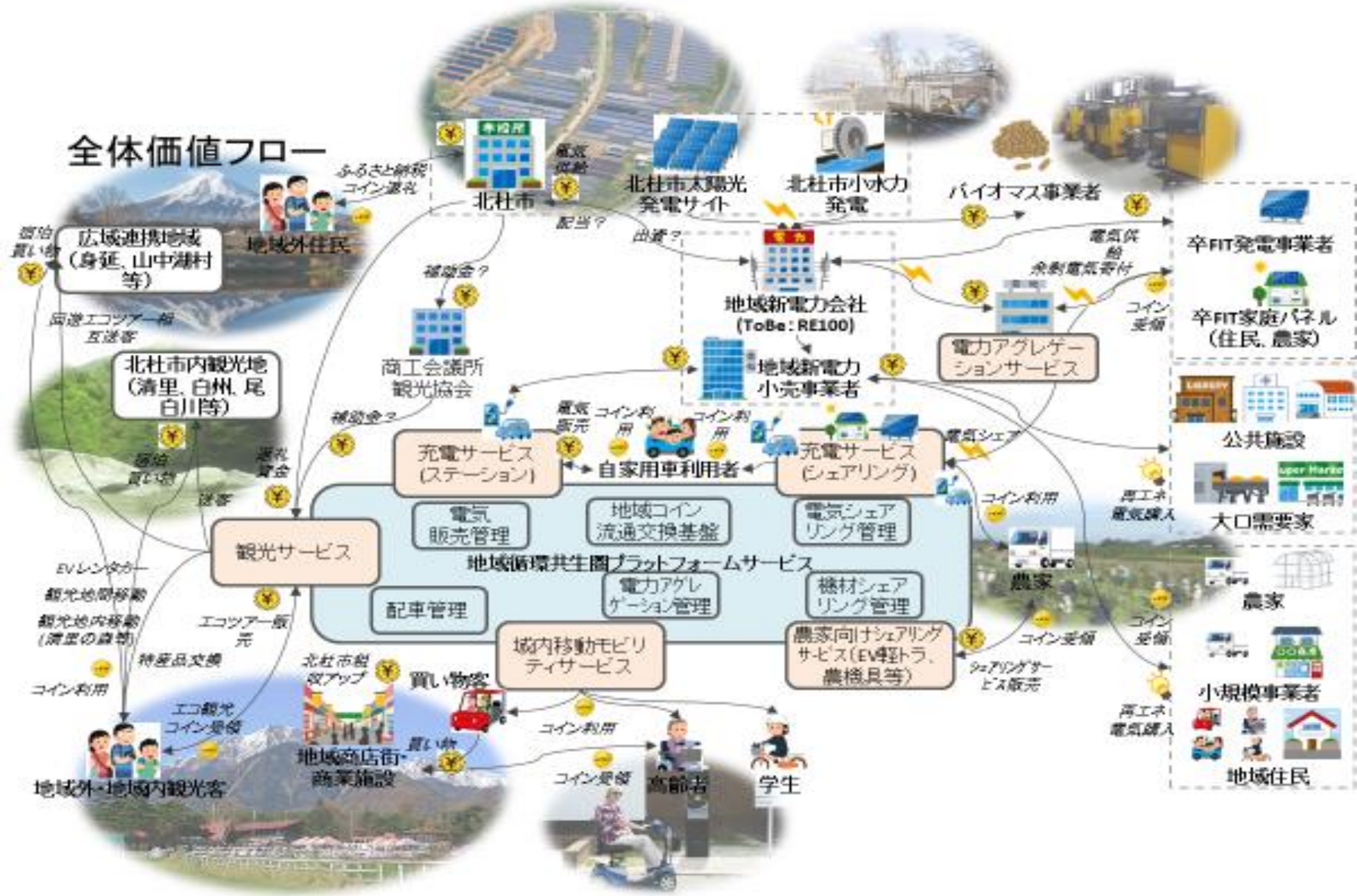


ドイツのシュタットベルケを見本にして考える

日本一の日照時間の長い北杜市にある多くの太陽光発電の近い将来、卒フィット社会をみすえて、地域の自然エネルギーを生かした地電電力事業を始めとする地域循環共生圏北杜をデザインして、持続可能でWell-beingな脱炭素社会を実現に導く!

はじめの一歩　プラットフォーム

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

- 今年度チャレンジしたことと、当初の到達目標に対する達成状況などを記載してください。（7月のキックオフミーティング資料の「地域のありたい未来の実現のために」、12月の中間報告資料の「11月現在での構想について」等の記載内容をふまえてご記載ください。）

・年間通して①から④の4つの事業に取り組んだ。各事業に座長を置き、座長は4回開催したWSに参加し事業の進捗の報告をしてくださった。最終報告では課題の整理と今後の事業計画が示された。またこの間ステークホルダーは20を超え、70回を超えるオンライン等での打合わせにより、地域のありたい未来の波長が合ってきていると思われる。また、環境省はじめ様々な方々のサポートを受けることができ、想定していた以上に事業が展開した。以上の事から、今年度の取組は当初の到達目標を達成できたのではないかと考えている。
・コロナウイルスの影響で大変なところ、関係してくださった全ての皆様にこの場を借りて心から感謝申し上げるとともに、これからが本番なので、力を出し合って　ありたい未来をつくりあげていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

主な事業内容	2020年度(1年目)										2021年度（2年目）
	5月6月	7月	7月8月9月	9月	10月	11月	11月12月	1月	1月	2月3月	
北杜市地域循環共生圏プラットフォームの構築事業全体	関係者の調整	7/29キックオフ＋第1回WS	企画検討 勉強会の実施	9/24第2回WS	事業化に向けた検討 勉強会の実施	11/19ジオデザインWS	11/30中間報告書提出 12/8.9中間報告会	1/7秩父新電力勉強会	1/27第3回WS&シンポジウム	2/26最終報告書提出 3月EVのレジリエンス調査	○ 事業化に向けて検討を継続
①地域電力会社の検討	○	7/29キックオフ＋第1回WS	○	9/24第2回WS	10/14地域新電力勉強会 10/29卒FITパネル視察	11/19ジオデザインWS	11/30中間報告書提出 12/8.9中間報告会	1/7秩父新電力勉強会 1/25野立てパネル設置	1/27第3回WS&シンポジウム	2/26最終報告書提出 3月EVのレジリエンス調査	○卒FITパネル実態調査等 ○野立てパネル実装
②地域内電源活用とグリスロモビリティなどの導入で二次交通を確保する	○	7/29キックオフ＋第1回WS	○	9/24第2回WS	10/14地域新電力勉強会 10/29卒FITパネル視察	11/19ジオデザインWS	11/30中間報告書提出 12/8.9中間報告会	1/7秩父新電力勉強会	1/27第3回WS&シンポジウム	2/26最終報告書提出 3月EVのレジリエンス調査	○ シェアリングサービス等からスタート
③充電軽トラックの開発	○	7/29キックオフ＋第1回WS	○ 9/7農家訪問 9/11EVホンダ様勉強会	9/24第2回WS	11/9群馬大学天谷先生EV軽トラ勉強会	11/19ジオデザインWS	11/30中間報告書提出 12/8.9中間報告会 12/4アベックスへ調査聞き取り	1/7秩父新電力勉強会	1/27第3回WS&シンポジウム	2/26最終報告書提出 3月EVのレジリエンス調査	○ ②と合体
④ITプラットフォームの構築	○	7/29キックオフ＋第1回WS	○	9/24第2回WS	10/14地域新電力勉強会 10/29卒FITパネル視察	11/19ジオデザインWS	11/30中間報告書提出 12/8.9中間報告会	1/7秩父新電力勉強会	1/27第3回WS&シンポジウム	2/26最終報告書提出 3月EVのレジリエンス調査	○

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	**【事業１】地域電力会社について**		
	概要	市内に豊富にある太陽光パネルの卒FIT電気を集め地域の人々にその恵みを享受してもらうための地域電力会社の検討を行う。 地域の再生可能エネルギーの利用による脱炭素化とエネルギー自治を加速し、太陽光パネルの設置によって生じている地域住民の課題も解決して地域に価値を還元していく。なお　事業１～４は同時に進めていく。		
	課題・ボトルネック	託送料金などの自然エネルギー電力小売り事業等に関わる問題点	力を借りたい人物・企業像	自然エネルギー電気の地産地消に必要な規制緩和

2	事業名	**地域内電源の活用とグリスロモビリティ等の導入による二次交通の確保について**		
	概要	地域電源を利用することを前提にして、駅やバス停からのアクセスにＥＶモビリティやグリスロモビリティの導入を検討する。様々な電動バイクや電動自転車、シルバーカーなども併せて検討し、地域の学生や高齢者の市民の足として、また、観光客の足としても利用できる方法を提案する。		
	課題・ボトルネック	充電スタンドが不足している。	力を借りたい人物・企業像	EV車の導入を支援してもらえる企業や大学

3	事業名	**【事業3】使える！充電軽トラの開発について**		
	概要	田舎ぐらしには欠かせない”軽トラック“を市販の充電式バッテリーを搭載し、電気自動車化のする為の開発をする。		
	課題・ボトルネック	車検取得のハードルが高い	力を借りたい人物・企業像	自動車メーカー等

3	事業名	**【事業４】ＩＴプラットフォーム**		
	概要	北杜市の曼荼羅図実現のITプラットフォーム（ISOU)の構築により、EVモビリティによる地域住民の移動や観光拠点を繋いだ観光客の移動を促進する。また地域コインの利用を検討する。		
	課題・ボトルネック	地域電力会社の動向	力を借りたい人物・企業像	TIS㈱

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- 仲間探し、地域プラットフォームづくりなど、ステークホルダーの巻き込みをしたことで、**どんな変化や気づきがあったか**を記載してください。
- 地域の農家、工場、観光関連の関係者にご参加いただき、意見を聞くことができた。
- 4回のWSや約70回のzoom会議等で回を重ねて、目指す姿やそれぞれの役割に対する個々人の理解等がだいぶ合ってきた。
- 「wellbeing」なライフスタイルの実現に必要なポテンシャルが勢ぞろいしている地域であることをさらに実感した。

地域のコンセプトを描く！

- 地域のありたい未来を語り、地域版マンダラを作成したことで、**どんな変化や気づきがあったか**を記載してください。
- 新たに「電気（再生可能エネルギー）曼荼羅」の作成をすることが出来、より具体的にイメージを共有することができた。
- 今年度は国も県も北杜市も”2050年ゼロカーボン宣言“をした。世界の方向性が定まったことで、ゼロエミ曼荼羅図は追い風を受け誰もみたことのない世界の実現に向けて、スピード感をもって動き出した。
- 個別曼荼羅の作成をさらに進めていきたい

事業のストーリーを語る！

- 地域のありたい未来実現のための「事業のタネ」を検討したことで、**どんな変化や気づきがあったか**を記載してください。
- 施策の具体化などにより、事業の計画策定に近づいた。
- 事業を進める中で新たに生まれたタネの継続
- ネタはどんどん湧いてくる。
- 新たなステークホルダーの参画を促し、ワークショップなどに参加いただくように進める。

地域の目標を立てる！

- 地域の目標や成果指標を検討したことで、**どんな変化や気づきがあったか**を記載してください。
- 目標値を検討する中で、現状や目指す姿を意識して進めることが出来るようになった。
- 目標値の設定や現状値の調査が難しかったが、仮説をたてて設定を行った。
- さらに施策を進めないと、見えてこない目標値もある。

今年度の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 今年度、地域で環境整備などに取り組んだ過程で、ボトルネックとなったこと、困ったことや難しかったこと、新たに見えてきた課題などを記載ください。

- 軽トラックの電気自動車化については、検討を重ねた結果、車検やコンバージョンの価格の課題があり、想定していた安価でコンバージョンして走らせるという展開は難しいことが分かった。
  但し可能性がゼロではなく、
  新たに見えてきた展開としては、コンバージョンEV、超小型モビリティなどすべてのEV車両を　地域全体の実証実験「特区」として申請し展開する方法等があることが分かった。

- 計画までは行えたが、継続していくための資金調達や事業化に向けての事業体制などは今後さらに検討が必要。
- ロードマップを明確にし、曼荼羅図の全体の中で、それぞれの役割分担を認識していくことを進めたい。
- 事業体制が弱い部分や事業の取組方などについては、環境省や支援組織（EPO）等からのサポートをいただき、想定以上に事業を進めることができた。

今後の展望

- 今年度のチャレンジ、環境整備の結果（特に事業のタネの検討結果）、ボトルネック・課題などをふまえ、今後、どのようなことにチャレンジしていきたいかを記載ください。（スペースが限られますので、**優先的にチャレンジしたいこと**に絞って記載ください）

- 令和2年の取組をとおして、北杜市が「持続可能でウェルビーイングな2050年CO2ゼロやまなし」の実現に向けたポテンシャルに溢れていることを改めて実感することができた。
- また図らずもコロナウイルスの影響で、リモートワークが可能となり都市部では新しい働き方として地方に目を向け始めている。私たちはこの流れを北杜市の変革のチャンスと捉え、都会からの新しい働き方の移動先として地域の環境を整備していきたいと考えている。
- ゼロカーボンの北杜市を目指し、卒FIT電源を活用したEV車の促進に加え、地域材による空き家のリノベーション、また熱需要についても地域の木質バイオマスエネルギーを活用したボイラの導入、観光、農業のゼロカーボン化を促進して、見たこともないような美しい田舎の山岳景観が持続的に継続する脱炭素エリアの実現をめざす。
- 都市の企業がゼロカーボンの北杜市に職員を日常的に移動することでCO2削減できるしくみにもチャレンジしたい。
- 今年度は北杜市には多大なご協力を頂いた。市長にWSのご挨拶を頂いたり面談をさせて頂いたり、また担当職員様にはWSや勉強会を北杜市役所から配信させていただいた。次年度以降は、協働で事業を展開していくことができるように事業を着実に進めていきたい。